

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年 9月18日

## 【評価実施概要】

|       |  |       |             |
|-------|--|-------|-------------|
| 事業所番号 | 2874600154                               |       |             |
| 法人名   | 社会福祉法人 ぶどうの枝福祉会                          |       |             |
| 事業所名  | グループホーム 出石愛の園                            |       |             |
| 所在地   | 兵庫県豊岡市出石町福住1320<br>(電話) 0796 - 53 - 2112 |       |             |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構               |       |             |
| 所在地   | 兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階               |       |             |
| 訪問調査日 | 平成19年 8月 8日                              | 評価確定日 | 平成19年 9月18日 |

## 【情報提供票より】(平成19年 7月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

|       |                  |                          |      |
|-------|------------------|--------------------------|------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 15年 4月 1日 |                          |      |
| ユニット数 | 2 ユニット           | 利用定員数計                   | 18 人 |
| 職員数   | 14 人             | 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人 |      |

## (2) 建物概要

|      |       |        |
|------|-------|--------|
| 建物構造 | 木造 造り |        |
|      | 2階建ての | 1~2階部分 |

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |          |                |           |
|---------------------|----------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額)            | 39,500 円 | その他の経費(月額)     | 約19,000 円 |
| 敷金                  | 有(円)     | (無)            |           |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有(円)     | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無     |
| 食材料費                | 朝食       | 円              | 昼食 円      |
|                     | 夕食       | 1,500 円        | おやつ 円     |
|                     | または1日当たり |                | 円         |

## (4) 利用者の概要(7月10日現在)

|       |           |      |     |    |     |
|-------|-----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名       | 男性   | 5名  | 女性 | 13名 |
| 要介護1  | 10        | 要介護2 | 2   |    |     |
| 要介護3  | 2         | 要介護4 | 2   |    |     |
| 要介護5  | 1         | 要支援2 | 1   |    |     |
| 年齢    | 平均 84.56歳 | 最低   | 72歳 | 最高 | 96歳 |

## (5) 協力医療機関

|         |                   |
|---------|-------------------|
| 協力医療機関名 | 由良内科クリニック、 淀歯科診療所 |
|---------|-------------------|

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、周りが山々の緑や、コウノトリも飛来する田園に囲まれた自然豊かな環境の中に、医療・保健・福祉等の各施設が並ぶ福祉ゾーンの一部にある。神戸市に本部を置く母体法人はキリスト教の精神を理念とし、その法人が運営する老人保健施設に隣接し、ホームもその精神を基に運営されている。建物の外観は普通の民家のような家庭的な作りで、入りやすい雰囲気がある。材料には檜をふんだんに使い、木の香りがあふれて温かい感じに包まれている。利用者と職員は、お互いに家族のように高齢者と若い人として認め合う関係が保たれている。

## 【重点項目への取組状況】

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)   |
|      | 評価結果を踏まえて、職員と話し合いの機会を持っている。具体的には、金銭感覚の支援で改善に向け検討し、入居者の一部の方にはお金を使う機会を設けた。   |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目: 第三者4)   |
|      | 評価の結果を家族会で説明したり、災害や緊急時の連携、応援等も地域ケア会議で検討項目にしてもらうなどの準備をしている。   |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)  |
|      | 2ヶ月に1回開催し、今年度分については、5月の開催記録を確認した。地域の区長他の出席で、地域からの情報や意見を聞き、サービスの向上に取り組んでいる。   |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)  |
|      | 毎日のトピックスを月1回報告し、年に2回は写真を同封し、写真には様子がわかるコメントをつけて送付している。家族会を年2回を開催し、家族の率直な思いが聞ける場となり、運営に反映するように努めている。今後は、家族会のつながりから広がる活動にも期待ができる。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)   |
|      | 地域の行事(お盆の催しや小学校の運動会など)に参加している。又、地域包括支援センターで行っている地域ケア会議に出席し、地域活動の情報の収集をしている。福祉ゾーンの施設のひとつとして積極的にアピールし、地域密着型サービスとしての交流を深めて欲しい。    |

## 2. 第三者評価結果票

| 第三者                          | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                            |
|------------------------------|----|--|---|---------------------|--|
| <b>理念に基づく運営</b>              |    |  |   |                     |  |
| <b>1. 理念と共有</b>              |    |  |   |                     |  |
| 1                            | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている    | 「仕える精神の実践」を理念とし、やってあげるのではなく、やらせていただくという気持ちで業務に取り組んでいる。                      |                     | 事業所は、事業所独自の理念として、地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した5つの運営方針を掲げている。 |
| 2                            | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                       | 毎朝朝礼で唱和し、実践に向けて取り組んでいる。人生の先輩として入居者を敬い、言葉遣いや態度に気を配っている。                      |                     |  |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |    |  |   |                     |  |
| 3                            | 5  | 地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の行事(お盆の催しや小学校の運動会など)に参加している。又、地域包括支援センターで行っている地域ケア会議に出席し、地域活動の情報の収集をしている。 |                     | 福祉ゾーンの施設のひとつとして積極的にアピールし、地域密着型サービスとしての交流を深めて欲しい。             |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |    |  |   |                     |  |
| 4                            | 7  | 評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる  | 評価結果を踏まえて、職員と話し合いの機会を持っている。具体的には、金銭感覚の支援で改善に向け検討し、入居者の一部の方にはお金を使う機会を設けた。    |                     | 評価の結果を家族会で説明したり、地域ケア会議で検討項目にしてみようなどの準備をしている。                 |

| 第三者                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|------------------------|----|---|--|---------------------|---|
| 5                      | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている              | 2ヶ月に1回開催している。今年度分は5月の開催の記録を確認。福住区の区長他の出席で、地域からの情報や意見を聞き、サービスの向上に取り組んでいる        |                     |   |
| 6                      | 9  | 市町との連携<br><br>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                                  | 出石の地域ケア会議が毎月開かれており、積極的に参加している。市の出前講座にも出席し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。            |                     |   |
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |    |   |  |                     |   |
| 7                      | 14 | 家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 月1回、毎日のトピックスを書いたものを渡して報告している。又、年2回は写真を同封し、その時の様子が分かるように写真にコメントをつけて送付している。      |                     |   |
| 8                      | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 年2回家族会を開いて意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。   |                     | 個人では言えないこともいろんな意見が出ることによって誘発され、家族の率直な思いが聞ける場となってきている。今後、家族会での横のつながりから広がる活動にも期待ができる。 |
| 9                      | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 法人として異動は必ずあることで、避けられない。又、それ以外の離職のときも、入居者によって報告するかしないかも含めて、ダメージを最小限に抑える配慮をしている。 |                     |   |

| 第三者                              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|----------------------------------|----|--|--|---------------------|--|
| <b>5. 人材の育成と支援</b>               |    |  |  |                     |  |
| 10                               | 19 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>                | <p>内部研修として口腔ケアなどの研修を行っている。職員の異動などもあり、なかなか機会が得られなかった。</p>   |                     | <p>研修を受けることにより、いろんな知識・技術を身につけるだけでなく、外部との交流や情報を得る機会として欲しい。職員に研修の情報を伝えるなど、育成していくための計画を立てて取り組んでほしい。</p> |
| 11                               | 20 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>      | <p>地域の特別養護老人ホームの施設長との連絡会があり、合同勉強会を企画する予定がある。又、防災を含めて協力体制を作る方向で話し合いを進めている。</p>                              |                     |  |
| <b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>        |    |  |  |                     |  |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |    |  |  |                     |  |
| 12                               | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>ご本人と家族と一緒に来て見学できる日を設定し、雰囲気を知ってもらい馴染めるよう配慮している。入居後も、自宅デイ(ホームから自宅に出かけて数時間過ごしてもらう)も実施し、徐々に馴染める工夫をしている。</p> |                     |  |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |    |  |  |                     |  |
| 13                               | 27 | <p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>                   | <p>いろんな場面で、支援する側・される側という立場におかず、調理や掃除など教えてもらいながら協働し、支えあっている。家族として過ごしているという雰囲気で違和感がない。</p>                   |                     |  |

| 第三者                                | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|------------------------------------|----|--|---|---------------------|---|
| <b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>    |    |  |   |                     |   |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                 |    |  |   |                     |   |
| 14                                 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>   | 一人ひとりの言葉にはならない思いまでを態度や行動から汲み取る努力をし、実践している。  |                     | 希望や意向を言動から把握するだけでなく、場面によっては後の行動の予測もしている。記録がされていれば職員間で共通理解でき、より本人本位のサービス向上につながるのではないかなと思う。 |
| <b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |    |  |   |                     |   |
| 15                                 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>     | 朝の申し送り時にケアカンファレンスを行い、それぞれの入居者の状況を細かく把握している。その積み重ねで今日できること・継続的にできることを職員で考え、リーダーがまとめて介護計画を作成している。 |                     | 家族にも説明し、一緒に話し合っている。   |
| 16                                 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | 担当職員からの計画変更の意見に柔軟に応じて検討し、現状に即した介護計画の見直しを行っている。  |                     |   |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |  |   |                     |   |
| 17                                 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>                                     | 入居者のご要望に応じて往診や訪問看護のサービス受けたり、状況に応じて通院するなど柔軟な支援を行っている。  |                     |   |

| 第三者                             | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|----|---|---|---------------------|-----------------------------------|
| <b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |   |   |                     |                                   |
| 18                              | 43 | かかりつけ医の受診支援<br><br>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している               | 事前に一人ひとりのかかりつけ医を聞き取り、受診の支援をしている。近くにかかりつけ医がなくて家族の方が通院介助が困難な方は近くの医院を何件か紹介し、選んでもらっている。                             |                     |                                   |
| 19                              | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br><br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | かかりつけ医に往診をお願いし、職員へ対処の仕方などの指導を受けながら、家族とも終末期の方針の共有を図っている。希望に応じて、最期まで看取った事例がある。                                    |                     |                                   |
| <b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>  |    |   |   |                     |                                   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>          |    |   |   |                     |                                   |
| (1)一人ひとりの尊重                     |    |   |   |                     |                                   |
| 20                              | 50 | プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                           | 言葉かけや態度はゆったりとして自然でありながら丁寧で、誇りやプライバシーを損ねていない。  |                     |                                   |
| 21                              | 52 | 日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している             | 一人ひとりのペースを大切に、個人の状況に応じて希望に沿った支援をしている。落ち着かない方には外出をうながし介助し、ゆったりとソファで話を聞いてもらっている方、新聞を読んでおられる方など、それぞれマイペースで過ごされている。 |                     |                                   |

| 第三者                           | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|-------------------------------|----|--|---|---------------------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |  |   |                     |  |
| 22                            | 54 | 食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 調理を得意とされる入居者の方を中心に、準備されている姿は生き生きとしている。誕生日には好きなメニューをリクエストできたり、お弁当を作ったの外出や、外食の機会もある。              |                     |  |
| 23                            | 57 | 入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 毎日、午前・夕方・夜間と希望に合わせた入浴ができるよう努力している。仲の良い方同士での入浴や、同姓の職員が介助するなどの配慮をしている。                            |                     |  |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |  |   |                     |  |
| 24                            | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの好みを把握し支援している。外出が好きな方には外出の機会を、台所の用事が好きな方には台所、針仕事が得意な方には繕い物をと、得意なことを役割にして楽しみごととされている。       |                     |  |
| 25                            | 61 | 日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                    | 毎日1回は外出できるように支援している。全員で行動するより、その方の気分に応じてタイミングを見計らい、買い物など戸外に出かけられるよう支援している。                      |                     |  |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |  |   |                     |  |
| 26                            | 66 | 鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 玄関のみ電子ロックが掛けられているが、テラスから庭への出入りなど他は自由で、開け放されており閉塞感はない。ロックされている玄関でワンクッションの間ができ、それをうまく声かけなどに繋げている。 |                     | 職員間でロックされてないと不安だという思いがある。立地的な部分でも不利があるが、職員みんな鍵をかけないこと・かけることによる意義について意識の統一を図ってほしい |

| 第三者                            | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|--------------------------------|----|--|---|---------------------|--|
| 27                             | 71 | 災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている                                 | 7月末に夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。スプリンクラーも設置されており、火災時は避難することが最大課題である。               |                     | 実際に訓練を行って避難経路など、新たな問題点が挙げられた。独自での避難が困難だということも確認された。今後、地域ケア会議などで働きかけ、警察も含めた訓練に繋げていく計画がある。期待したい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援     |    |  |   |                     |  |
| 28                             | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 食事量チェック表・水分補給のチェック表でそれぞれ記録されている。一人ひとりの状況を見ながら、ご飯をおかゆにして水分摂取を増やすなどの工夫がされている。 |                     |  |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> |    |  |   |                     |  |
| (1) 居心地のよい環境づくり                |    |  |   |                     |  |
| 29                             | 81 | 居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全体としてゆったりとした空気が感じられる。共用のリビングは家具の配置が工夫され、孤立し過ぎず、それぞれ自分の居場所を確保できている。          |                     |  |
| 30                             | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている                     | 居室によって和室タイプ・洋室タイプがあり、和室にはこたつが置かれていたり、趣味の本が本棚に置かれていたり、それぞれ個別にその人らしい居室となっている。 |                     | 転倒やベッドからの落下など、個別に起こり得る危険に配慮し、家具の配置や高さなども検討し対処している。   |

 は、重点項目。